

12月3日～9日は障害者週間

ともにイキイキと暮らせるまち

障害がい福祉課 ☎(2335)4813 ㊟(2333)5731

「身体」「知的」「精神」の障がいにはそれぞれに特性があり、市内にはそれらを認め合いながら「イキイキ」と働く人たちがいます。誰もが自分らしく暮らせるまちを目指し、障がいの特性などの理解を深めましょう。併せて市内の「イキイキさん」が働くカフェやパン屋などの店舗を紹介します。



河本さんは(月)～(金)の9時～16時、知的障がいがある方が働くSEELPビナに通っています。週3～4日程度、説明書折りや紙の裁断などを行い、他の日はパンの出張販売所PANBEENAのスタッフです。PANBEENAの仕事について聞きました。



SELPLビナ / PANBEENA

河本直子さん

仕事も一緒に働く人も好き

開店前はクッキーを並べたりテーブルを拭いたりします。一番楽しい仕事は出来上がったパンを袋に入れる作業です。レジ打ちは難しいけど頑張って練習しています。パンを売る仕事も好きです。パンが売れたときやお客さんに「おいしい」と言ってもらえるとうれいんです。一緒に働く人もみんな優しく教えてくれるから好き。ずっとこの仕事を続けていきたいです。私のおすすめは、きなこクリームパン。きなこの味がおいしいのでぜひ食べてほしいです。

作業の全てが楽しい

キャビネットの説明書や部品、携帯用粉ミルクなどを流れ作業で袋詰めしたり、医療用フィルターをハンマーを使って型抜きしたりと日々さまざまな作業をしています。全てがとても楽しいです。

左手が動かしづらけれど、位置や角度を変えるなど工夫しています。視野障がいので物が3つに見えたりするので、左側にシールを貼った眼鏡を掛けるようにしたら失敗が減り、仕事がとても楽しくなりました。

今後は、親が高齢なので楽をさせてあげたいです。夢は自分の店を持つこと。生まれ育った海老名でこれからも働き続けたいです。

ナチュラルサポート海老名

渡部里士さん



5年程前、渡部さんは事故で手や脚、目などの左半身が不自由になりました。(月)～(金)は施設に通所する傍ら、毎日リハビリと減量のために1万歩歩いています。後遺症がある中で、現在どのように仕事に取り組んでいるのかなどを聞きました。



山下さんと渡邊さんは地域に根差した障がい福祉サービス施設の運営スタッフです。施設利用者の自立を目指してサポートをしています。障がいがありながらも働く人の様子や、スタッフとしての思いを聞きました。

配慮よりできることを評価して

施設にはポスティングやちらし折り、飲食店の清掃、除草、米作りなどの仕事があります。通所者は「1人暮らしをしたい」「飲食店を持ちたい」などの目標を持って、自身のペースで働いています。

みんな仕事熱心で、飲食店でのテーブルセッティングにたこ糸を用意して真っすぐにするとか、片手

が動かない人はちらし折りのときに文鎮を使って押さえるとか。より良くするためのアイデアには感心します。

障がいがあることを配慮してほしいというよりも、今できていることを評価してほしい。「こんなことができるよ」と、どんな世間に発信して偏見をなくしていきたいです。

ライブフードサポート

渡邊百合子さん(右) 山下実則さん(左)

